

千葉県社保協通信

2019年度 — No12 2020年 1月 29日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

県社保協 & 地域医療と公立病院を守る県民連絡会 県要請・懇談

公立・公的病院「再検証」要請は撤回させ 医師・看護師を増やし、 地域医療・介護体制充実を！



県民連絡会後藤英輝代表が要請団としてあいさつ

1月28日、県社保協は地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会と共同で「医師・看護師を増やし、地域医療と介護の提供体制の充実を求める要望書」を提出、県の担当各課と懇談。要望内容は、医師・看護師の確保、県立病院の存続・充実、県民の立場に立った保健医療計画・地域医療構想、地域包括ケア・在宅医療、国民健康保険など39項目です。

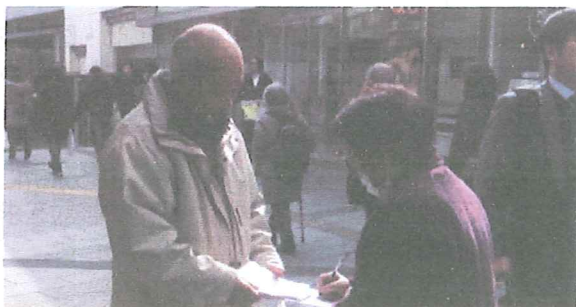
とりわけ、厚生労働省の「公立・公的病院再編・統合」の「再検証」要請について、「特定のデータ、全国一律の基準で個別の医療機関に再編・統合の検討を求める方法は地域医療の崩壊を招くこと、地方自治への不当な介入であることから、撤回するよう国に要請すること」さらに、「県として『名指し』された10の病院と自治体関係者、地域住民の医療ニーズをよく聞き取り、拙速な判断をせず、すべての県民の命と健康を守り、安心して住み続けられる地域づくりのための努力を」と強く求めました。

懇談には、千葉、市原、香取、匝瑳、山武、長生、松戸の各地域、団体から29人が参加しました。「再検証」のリストに挙げられた「多古中央病院」「千葉東病院」「ジェイコー千葉病院」などではすでに「病床削減・機能再編」がすすめられており、「なぜ対象になるのか」との声が上がりました。「千葉市立青葉病院」は「救急医療の受け入れは市内トップであり、近隣に千葉大学病院はあるが紹介状がなければいけない」「地域の実情をしっかりと見てほしい」と訴え。県の担当者は「地域医療構想調整会議で議論し方向性を出す」としましたが、参加者の「調整会議には地域の住民の声が反映される仕組みがない」との指摘に対し、「調整会議の在り方についても検討したい」と回答。要望事項に対して、あらためて文書での回答を求めました。

県社保協・消費税廃止県連絡会・共同定例宣伝

消費税は5%に引き下げて！ 税金の集め方・使い方変えて 安心の社会保障を！！

25日昼、県社保協は消費税廃止県連絡会と共同でJR千葉駅前定例宣伝を行い、労連、土建、千商連、保険医協会、新婦人、自治労連、共産党など8団体10人でテッシュ付チラシ180セット配布。13筆の署名が寄せられました。



●「署名するよ」と車イスの男性。「とにかく安倍政治はひどいね。庶民のくらしがわかっていないよ。消費税10%に上げるような時期ではないでしょ。社会保障？何がよくなった？ちっともよくなならない、負担がふえたただけ」と怒りがいっぱい。

●67才年金生活の女性。「消費税10%おかしい。経済成長してるなんて実感ない。年金も少ないし、国民健康保険料は高い。安心して暮らしたい、そのために私にできることはとも考える。澤地久枝さんたちが立ち上げた（アベ政治を許さない）は共感できてすごいと思う。原発反対集会には参加したことがあります。官邸前にも行ってみたいですね。それに、安保反対行動などあれば参加したい」と署名。

千葉県社保協通信

2019年度 — No10 2019年 11月 29日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL: 043-225-6790 FAX: 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

いのち・暮らし守り 安心して住みつつけられる地域づくりを

厚生労働省の「公立病院再編・統合」要請の撤回と

地域を守る医療体制を求める要望書を提出

県社保協・公立病院と地域医療を守る千葉県民連絡会

厚生労働省は、9月26日、全国1455の公立病院や公的医療機関の再編・統合を促すため、「再編・統合の議論が必要」とする424の病院名を公表しました。今後本格的に議論し、2020年9月までに結論を出すよう都道府県を通じて対象病院に要請するとしており、千葉県では10病院が対象となっています。いずれの病院も地域住民にとってなくてはならない重要な役割を發揮しています。

県社保協と公立病院と地域医療を守る千葉県民連絡会は、11月28日、県知事宛に「厚生労働省の『公立病院再編・統合』要請の撤回と、県民のいのちと健康、地域を守る医療体制を求める」要望書を提出しました。

要望書の提出にあたって、公立病院と地域医療を守る千葉県民連絡会長平弘事務局長は、厚労省の「再検証要請」の根拠の問題点を次のように指摘しました。

- 急性期医療を中心に診療実績を元に線引きしたため、高齢者の医療を支えている地方の中小病院が数多く対象とされたこと。
- 全国一律で自動車での移動時間が20分以内とされ、山間地などの地理的条件を考慮していないこと。
- 病院に予告なく行われたため、病院関係者や住民・患者に不安を与えていること。
- 自治体病院は自治事務であり、国の不当な介入があってはならないこと。また再検証期間が1年と短時間で、地方自治の民主的な運営を否定しかねないこと。

病院や診療所を縮小する再編・統合が進めば、少子・高齢化が進行するなかで、受診困難な地域をさらに広げると同時に、地域振興の妨げにもつながります。

もともと千葉県の医療、介護提供体制は全国水準から立ち遅れており、全国一律の計算式による「地域医療構想」の検討を強要すること自体に無理があると言わざるをえません。加えて、医師や看護師不足が経営難を引き起こし、病院・病床機能の縮小が余儀なくされています。さらに度重なる患者負担増のために経済的な困難で受診できない患者が急増しています。

こうした下で「診療実績が少ない」などとする分析結果とそれによる病院の再編・統合を押し付けることは、住民の福祉の増進を図ることを使命とする地方自治の否定であり、到底容認できるものではありません。



地域医療構想推進室長に要望書を渡す、県民連絡会事務局長平弘さん、県民医連加藤久美事務局長(左)、県社保協藤田まつ子事務局長(右)

県民医療の充実で、いのちと暮らし、安心して住みつつけられる地域づくりを求め、下記の事項を要望し懇談を申し入れました。

1. 県として、厚生労働省から「再編・統合の議論が必要」とされた10の病院関係者(病院職員・自治体首長)や地域住民、各自治体の医療要望や実態をよく聞き取り、拙速な判断をせず、県民のいのちと健康が守られる安心・安全の医療体制、地域づくりのために努めること。
2. 医療現場で不足している医師・看護師・医療技術職・介護職の増員、確保を国、県として行うこと。
3. 特定のデータ、全国一律の基準による分析によって個別の医療機関に再編・統合の検討を求める方法を撤回するよう、国に求めること。

ちば民報

定価一部50円 月ぎめ150円
毎第1・第2・第3日曜日
月3回発行
発行所 千260-0031
千葉県中央区新千葉3-16-15
電話・043(241)4311
FAX・043(241)9475
ちば民報社

ちば民報のメールアドレス: chiba-minpo@nifty.com

ローム教皇が38年ぶりに来日した。教皇の来日を改めて脚光を浴びた写真がある。亡くなって

いる幼子を背負い、直立不動でまっすぐ前を見つめる「焼き場に立つ少年」。この一枚の写真は、「千の言葉より多くを語る」と教皇の心を動かした世界に紹介された。教皇は今回、長崎・広島を訪れ、核兵器廃絶や平和へのメッセージを力強く発信した。核兵器禁止条約批准を阻み、武器を爆買し、季節外れの「桜」に慌てふためくこの国の指導者はどう受け止めたのか。(天)

医療守る地域からの反撃を

「よいなお世話だ」
千葉市では昨年末から「病院事業のあり方検討委員会」がおこなわれ、この8月末に答申を市に提出しました。主要な点は、①海浜病院については老朽化への対応のため新病院としての整備。②青葉病院は周辺の医療機関との役割分担、新病院へ救急医療を集約。③経営については当面現状の

ままだが、経営形態については引き続き検討としました。
一方、厚労省は9月末、全国424の公的病院を「再編統合」について特に議論が必要」と一方的に実名で発表しました。この報道は市民の中に大きな衝撃と不安を与えています。
こうした場合を受け、新しい千葉・みんなの会は、「市民が何も意見を言わなければ再編・統合が強行さ

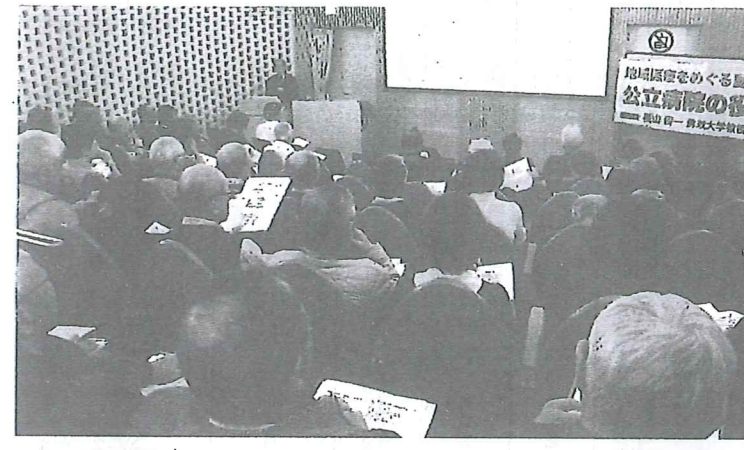
る。学んで情勢を変えよう」と、「地域医療をめぐる動向と公立病院の役割」と題した講演と学習のついでを行いました。講師は京都の佛教大学社会学部教授で日本医療総合研究所副理事長の横山壽一(としかず)氏。
厚労省の公的病院「再編・統合」計画は来年9月に期限を定めて見直し案を示すことを求めています。千葉市では千葉リハビリ

テーションセンター、独立行政法人国立病院機構千葉東病院、独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院内、さらに市立青葉病院の4病院が含まれています。他に千葉県内であられる病院は、鉦子市立病院、国保多古中央病院、横芝光町立東陽病院、南房総市立富山国保病院、鴨川市立国保病院、国保直営君津中央病院大佐和分院です。
なぜ今、再編統合

でも、なぜ厚労省は「再編・統合」が必要として発表したのでしょうか。それは国がすすめる「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」の「病床削減」計画が財界の思惑通りに進まないことが原因とされています。
再編・統合が必要な「あらゆる基準」は主に、①診療実績が少ない、②機能が近い、③または病院が近いの3つです。一番の問題は基準となるデータが、住民、患者のニーズを反映していないことです。
このことについて、全国知事会、全国市長会、全国町村会が3会長連名で、「地域の個別事情を踏まえず、全国一律の基準による

分析のみで病院名を公表したことは、国民の命と健康を守る最後の砦である自治体病院が機械的に再編統合されることにつながりかねず、極めて遺憾」と抗議の声をあげました。
富山県の場合、従来から「3割以上削減するよう」と求められていたことが、それに対し知事は「それはできない。我々は独自のやり方でやる。自分たちで地域のニーズを把握して構想を作る」と頑張り続けたのです。そこへきて今回の厚労省の発表には、「非常に乱暴なやり方だ。形式的な基準にあてはめるのはいかなるものか」と批判と疑問を示しました。
和歌山県知事も「厚労省はやりすぎ。余計なお世話だ」と痛烈な批判をします。「地方の実情がわかっていない」と述べ、地方自治体は、この「リスト公表」は問題が多すぎます。講師の横山氏は、

厚労省、424の公的病院再編統合へ向け実名公表 千葉市「みんなの会」が学習会



- ### 公的病院の9原則(1948年制定の医療法)
- 1、普通のかつ平等に利用しうるものであること。
 - 2、常に適正な医療の実行が期待されること。
 - 3、医療費負担の軽減を期待できること。
 - 4、その経営主体は当該医療機関の経営が経済的変動によつて左右されないこと。
 - 5、当該医療機関の経営より生ずる利益をその医療機関の改善のための用途以外に使用しないこと。
 - 6、社会保険制度と密接に連携協力すること。
 - 7、医療と保険予防の一体的運営によつて経営上矛盾を来さないこと。
 - 8、人事業務等に関し、他の公的医療機関と連携、交流が可能であること。
 - 9、地方事情と遊離しないこと。

会議は政府の思惑ほど削減できていないことに「十分」であると問題視。むりやり押し進めるため各地に、アドバイサーを派遣することまでして病床数削減などを進めています。
公立病院の歴史は、住民にたいして平等に、安い費用で良い医療を提供するか、このことに知恵を絞ってきた歴史です。いちと健康を守る医療の使命は、市場論理(儲かるかどうか)では達成できません。横山氏は「だからこそ公が責任をもつて提供する必要がある」と強調しました。
1948年に制定された医療法で述べられている、「9」の公的病院の原則の意義は、今日においても変わるものではありません。
また、民間病院も住民の医療を保障するという点で、公的病院と共存しながら、ともに医療を守り、発展させる取り組みが大切だと述べました。
講演後、会場から公的病院を守る決意と質疑・応答が積極的に出され、さらに、東京の「都立病院の充実を求める連絡会」から連帯して運動を進めようとの提起がありました。
美浜区の佐々木ゆうき前市議が、この間の運動などの経過について報告。花見川区の中村きみえ市議が、今後の運動の方向性と行動提起を行いました。(文責・写真 佐久間勉)

市立青葉病院と市立海浜病院を市立のまま存続・充実を求める請願署名

千葉市には海浜病院と青葉病院の2つの市立病院があり、市民の命と健康を守る岩の役割を果たしています。この間、あたらしい千葉・みんなの会では、市立海浜病院の存続と診療科目の充実を求めて署名を集め、10月6日、8筆を市に届けてきました。2つの病院のあり方について、千葉市病院事業あり方検討委員会が開催され、病院のあり方が検討されてきました。

8月の第5回の検討委員会（最終）では、救急医療の充実や小児・周産期など政策的医療の確保を考慮すれば老朽化した海浜病院に代わる新病院が近隣地域に必要という方向を出しました。その一方で、青葉病院は2030年には救急医療などの医療機能を縮小する方向性を答申しました。

97万市民にとって海浜病院も青葉病院も市立のまま充実・発展させていくことによって、市民の命と健康を守る役割を果たすことができます。よって、以下、請願致します。

1. 市立青葉病院と市立海浜病院を公立・直営のまま存続し、充実してください。
2. 市立海浜病院は、近隣に用地確保を早急に行い、建替えを進めて下さい。

氏名	住 所	家族欄

取り扱い団体

あたらしい千葉・みんなの会
〒263-0016 千葉市稲毛区天台5-24-8
(千葉土建千葉支部内) TEL043(290)0005

市立青葉病院、市立海浜病院を市立のまま存続・充実を

～子どもから高齢者まで安心の医療の提供のために～ **あたらしい千葉・みんなの会**



市立海浜病院の存続問題で、今年1月から存続と診療科目の充実を求める署名活動に取り組み、署名数10,425筆が寄せられました。みなさんの声を市に働きかけをしていくことで市立海浜病院は近隣での建て替えをしていく方向性が示されました。ご協力に感謝申し上げます。

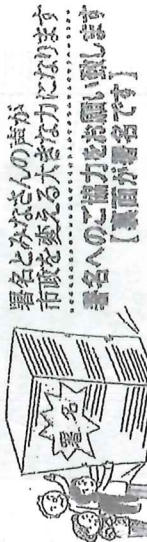
海浜は全面建て替え新病院、青葉は縮小で救急医療がなくなる？

千葉市病院事業のあり方検討委員会が開催されていますが、利用者である市民の委員がおらず、市民の声を反映する機会がないまま、8月には答申が示される予定です。
あたらしい千葉・みんなの会は、千葉市に対して、広く市民の声を聴くことや、シンポジウムなどの開催で情報を伝えることを求めています。



6月4日に開催された病院事業のあり方検討委員会では、Aは現状維持、Bは統合、B'は新病院を海浜と同じ300床で出発し、2030年以降に機能分担を図り、新病院に救急医療など急性期機能を集約、青葉は回復期・慢性期機能を担う病院として縮小再編するという下図の3パターンが示されました。
私たちは、海浜病院も青葉病院もそれぞれ市立のまま存続・充実することが必要と考えます。【図表＝千葉市ホームページより】

時間軸	A			B		B'(機能分担を図った場合)	
	青葉病院 (ア)	新病院 (イ)	新病院 (イ')	新病院 (イ')	新病院 (イ')	新病院 (イ')	新病院 (イ')
2017年	252人 (79%)	184人 283床 [83%]	184人 283床 [83%]	560床～ 640床程度 (維持)	300床程度 (維持)	300床程度 (維持)	300床程度 (維持)
2030年(推定)	320床 (98%)	283床 (87%)	283床 (87%)	500人程度	100人+α	400人程度	400人程度
2030年	320床 (98%)	283床 (87%)	283床 (87%)	560床～ 640床程度 (維持)	300床程度 (維持)	300床程度 (維持)	300床程度 (維持)



署名とみなさんの声が
市政を変える大きな力になります
署名へのご協力をお願い致します
【署名が署名です！】

「あたらしい千葉・みんなの会」顧問
あたらしい千葉
2019年7・8月号 No.72
〒263-0016 千葉市稲毛区天台5-24-8
(千葉土建千葉支部内) 電話043(290)0005



さぬき市民病院職員労組ニュース

No. 2005 2020年 2月25日(火)

地域医療と公立・公的病院を守る学習会

2月8日(土)

昨年9月、厚生労働省が全国で424病院を「再編・統合の再検証が必要」として病院名を公表、香川県内では「さぬき市民病院(さぬき市)」「高松医療センター(高松市)」「済生会病院(高松市)」「滝宮総合病院(綾川町)の4病院が指名されました。それぞれの病院は地域に根差し、診療内容などを分担して地域の医療需要を担っています。当該病院や地元自治体などから強い憤りが表明されています。

地域医療と公立・公的病院を守る学習会実行委員会は、2月8日高松市内で学習会を開きました。

講師の今西 清さんは、「兵庫の地域医療を良くする会」の代表として活動した経験から実例を挙げながら解かり易く話してくれました。

「病院の統廃合問題で神戸市内の団地を訪問して個人署名を集めるとき、不在であれば玄関ドアのノブに『署名のお願いに来ましたが不在だったので置いて帰ります。何月何日に貰いに来ます』とメモを入れておき、もらいに行くところと署名をしてくれ、ノブに掛けられていた。手間暇かけて取り組むことが重要だ。」組合員5名が参加し、署名の重要性を学びました。



外来ホールで署名活動1,007筆 2月17日(月)~21(金)



2月8日の学習会を受け、臨時の執行委員会を開催。病院から外来ホールで5日間の署名活動の許可がもらえたことが報告され、非番者が中心となり午前・午後の分担を決め、実施することを確認。来院者に対し、全組合員参加を目標に署名依頼活動を実施しました。

署名をされる方々から、当院に対する賛否両論の生の声が聴けたことは意義深かった。来院者の多くは「病院が他院と統合してこの地区から移ったら、身近にかかれなくて困る、不安だ。」「医療が必要になる高齢者が増えよるのに病床削減や病院の統合・縮小はおかしい。」などと厚労省のやり方に対する厳しい声が多く寄せられました。「さぬき

市民病院がこの地域に必要。」という共通した認識があり、1,007筆もの署名が集められたことは大きな成果であったと感じています。(植村)

地域住民のご理解とご協力に感謝申し上げます。なぜなら、この病院は、地域にとっても大事だからです。自分一人の力では、多くの署名を集めることは、難しいから、家族や皆様からの手助けで成り立っています。これからもやれることは精一杯頑張ります。(飛開原)

最初に署名と聞くと引く人が多かったのですが、「病院に勤務している〇〇です。」と自己紹介をして署名の内容と必要性を説明することで99%の人が協力してくれました。国の医療に対する方針に疑問や、不満を持っている人がほとんどでした。今回の署名活動を通して日頃は聞けない病院に対する意見を聞くことが出来大きな成果になったと確信しました。(豊嶋)

精神科の入院復活。出産できる病院に回復してほしい。ここで出産できないので鳴門病院まで行っている。片道のタクシー代が2,700円、治療費よりも高い。殆どの人が病院の再編・統合には反対でした。「頑張ってください」との声に励まされました。(藤井)

「公立・公的病院統合再編阻止意思統一集会」日本医労連主催
2月26日(水)参議院議員会館講堂 署名をもって2名が参加します。

定期大会 2020年3月19日(木) 18:30~
院内第1会議室

地域の病院がなくなる?!

地域の病院は命の砦

—地域医療をつくる政策と行動—

横山壽一・長友薫輝 編著

A5判・並製カバー・160頁
定価(本体1300円+税)

病院は、地域で暮らし続けるために欠くことができません。
ところが、国は、町や村に1つしかない病院をふくめて、全国424の公立・公的病院を名指しし、統合再編を含めた病床削減計画の提出を自治体に求めています。そこには、「地域医療構想」の早期実現という政策があります。
本書では、地域医療を取り巻く情勢を整理した上で、「地域医療構想」とはなにか、「地域医療構想」が病院再編とどう連動しているか、地域医療を守り発展させるための政策や課題をどう考えていくかなどについて、各地の実践にそいながら紹介します。



主な内容

- 地域医療を守る……………住江憲勇/眞木高之/尾関俊紀
- 第I部 地域医療をとりまく情勢**
 社会保障改革と地域医療……………横山壽一
 1 社会保障改革の動きと地域医療/2 全世代型社会保障改革とは何か/3 全世代型社会保障改革と地域医療
- 第II部 地域医療をつくる政策と行動**
 1 地域医療構想と地域づくり……………長友薫輝
 1 地域医療構想とは/2 地域医療構想にそった“2つの基準”/3 再編は民間病院や大都市の病院にも及ぶ/4 医師や看護師の供給抑制政策にも連動ほか
 2 424病院リストの根拠「診療実績データの分析」のねらいと問題点……………塩見 正
 1 再検証要請の根拠とされた「診療実績データの分

- 析」の概要と問題点/2「診療実績データの分析」と「再検証要請」の民間への影響
- 第III部 地域医療の現場**
 1 難病医療の拠点・国立徳島病院を守る……………井上 純
 2 広大・多雪・寒冷な北海道の地域医療を守れ……………沢野 天
 3 三重県の地域医療構想と公立・公的病院の再編・統合……………新家忠文
 4 愛知県の実態から考える大都市圏域における地域医療構想の問題点……………長尾 実
 5 京都の地域医療構想にかかわる諸課題と地域医療実態調査の取り組み……………塩見 正
- 資料 厚生労働省が再編統合の検討を求めた公立・公的病院424施設

お問合せ・申込み先

自治体研究社 〒162-8512 新宿区矢来町123 矢来ビル4F TEL:03-3235-5941/FAX:03-3235-5933
<http://www.jichiken.jp/> E-Mail info@jichiken.jp

申込み書	ふりがな			書名	冊数
	お名前				
	お届け先	〒		地域の病院は命の砦	
	TEL	FAX			
				A5判 定価(本体1300円+税)	冊